

第11期 中間 株主通信

平成 25 年 4 月 1 日から平成 25 年 9 月 30 日まで



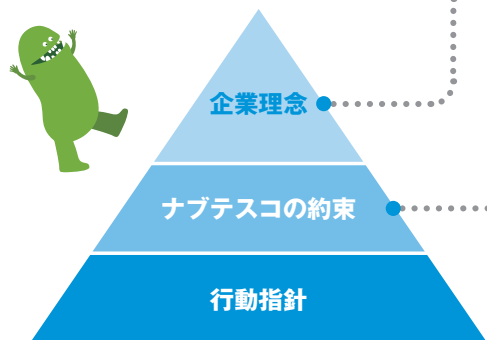
Nabtesco

moving it. stopping it.

社会とともに成長する 「21世紀生まれの老舗企業」を目指して

The Nabtesco Way

ナブテスコウェイ



【企業理念】

ナブテスコは、独創的なモーションコントロール技術で、移動・生活空間に安全・安心・快適を提供します。

【ナブテスコの約束】

1. 世界のお客さまとの親密なコミュニケーションを大切にします。
2. 一人ひとりのチャレンジ精神と変革意識を大切にします。
3. 利益ある成長を続けます。
4. 高い透明性と倫理観を持ち続けます。
5. 地球環境に配慮し、地域・文化との調和を図ります。

私たち一人ひとりが、まず自分から実践することで
「ステークホルダーの皆さんの夢」を実現します。

ナブテスコグループ長期ビジョン：2020年度の目指す姿

グローバルに成長し続けるベストソリューションパートナー

2020年度の経営目標

売上高

4,000億円

営業利益

600億円

真のグローバル企業としての責任を果たし、
これからも社会の信頼に応えてまいります。



株主の皆さまには、平素より格別のご支援を賜り、誠にありがとうございます。
ございます。

ここに当社第11期(2014年3月期)中間期の営業状況をご報告申し上げますとともに、今後の事業展開についてご説明させていただきます。

代表取締役社長 **小谷和朗**

Q 当中間期の営業状況はいかがでしたか？

A 輸送用機器、航空・油圧機器および産業用機器が前年同期に比べ増収となり営業利益も増益となりました。

当中間期の受注高は1,041億4千8百万円(前年同期比16.1%増)を獲得し、連結業績は売上高934億5千8百万円(同3.1%増)、営業利益79億3千8百万円(同4.5%増)、経常利益96億7千3百万円(同14.2%増)と、増収増益を果たしました。ただし四半期純利益は、前年同期における負のれん発生益の計上等に対して減少し、50億3千7百万円(同22.7%減)となっています。

売上高の状況を地域別に見ると、日本国内は景況感の回復を受けて532億6千2百万円(前年同期比2.3%増)と

堅調に推移し、アジア向けは中国における油圧機器の増加等により、191億3千万円(同9.4%増)と拡大を示しました。北米向けは主に航空機器が増加し、71億円(同26.8%増)に伸びています。一方、欧州向けは精密減速機の減少を主因として、136億6千1百万円(同10.7%減)にとどまりました。

事業別では、精密機器事業が産業用ロボットメーカー向けの需要減により減収となりましたが、輸送用機器事業、航空・油圧機器事業、産業用機器事業はいずれも売上を拡大しています。増益要因としては、精密機器事業における固定費削減・生産性改善効果や、輸送用機器事業、航空・油圧機器事業の利益改善が寄与しました。

Q 受注拡大に向けた新たな動きをご説明願います。

A 中国では合併展開で現地企業との関係を構築。北米では自動ドアと包装機の、欧州では鉄道車両用機器の事業基盤を強化しています。

当社の海外展開は、「地産地消」を前提に進めてまいりましたが今後もこの方針に基づき、特に中国市場、北米市場および欧州市場をターゲットとする展開を推し進めます。

中国では、今年4月に船用機器の製造販売拠点として、「上海納博特斯克船舶機械有限公司」を100%出資により設立しました。当子会社では今後、現地造船会社のニーズに対応した製品開発を行うべく技術陣を増強し、西神工場（兵庫県神戸市）で生産している中国向け船用機器の生産も段階的に移管していきます。

また、7月には精密減速機の中国子会社を「上海納博特斯克伝動設備有限公司」として合併化し、9月には建設機械用油圧機器の販売会社「上海納博特斯克液圧設備商貿有限公司」を合併設立しました。中国メーカー向けの販売を拡大すべく、こうした合併展開で現地企業との関係を構築し、対応力を高めています。

一方、北米では7月に米国子会社「NABCO Entrances, Inc.」を通じて、カナダの自動ドア販売会社「PORTA Service Inc.」の株式を追加取得・連結子会社化し、現地におけるドア事業の基盤をより強固にしました。さらに、自動包装機事業を展開する子会社「東洋自動機株式会社」は5月、米国ウィスコンシン州に「TOYO JIDOKI AMERICA CORP.」を設立し、北米市場での販売促進とサービス拡充に向けた体制を整えました。また、10月には

太陽熱発電市場の拡大に対応するため米国ロス・アンゼルスに事務所を開設しました。欧州では、世界の鉄道市場で55%のシェアを持つ車両メーカービッグ3との取引拡大を目指し、イタリアのOCLAP社を買収しました。このように、各事業の拡大を見込んだ展開を積極的に進めてまいります。

Q 通期の見通しはいかがでしょうか？

A 増収増益を見込んでいますが、産業用ロボット市場の需要状況等を鑑み、予想数値を下方修正しました。

第2四半期末現在の受注残高は、前年同期末比14.0%増となる798億1千3百万円を確保しており、営業状況も改善していることから、当期の連結業績は前期の落ち込みより回復し、全ての事業セグメントにおいて増収増益を果たすものと見えています。

しかし、産業用ロボット市場における需要の伸びが当初の想定を下回っていることに加え、利益面でも円安による仕入材料のコスト増や製品構成差による影響、販管費の増加等のマイナス要因が拡大しています。

そのため当期の連結業績については、期初予想を下方修正し、売上高1,989億円（前期比10.8%増）、営業利益185億円（同23.2%増）、経常利益221億円（同23.5%増）、当期純利益139億円（同4.7%増）としました。

Q 創立10周年を迎え、今の想いをお聞かせください。

A グループの一体感を高め、長期ビジョン目標の達成へ。次の10年間で世界に大きく羽ばたいていきます。

おかげさまで当社は、今年9月29日をもちまして創立10周年を迎えました。

帝人製機株式会社と株式会社ナブコの経営統合により2003年に生まれた当社は、2007年度まで順調に業績を拡大し、その間に現地法人の設立によるグローバル化を推進しつつ、現在の成長エンジンとなっている多くの事業基盤を構築してきました。

2008年度にはリーマンショックの影響を受け、初の減収・減益となりましたが、生産性向上と合理化への取り組みによる回復を経て、2009年度以降は次の成長につながっていく施策を積極的に打っています。

今後はグループの一体感をより高め、長期ビジョン目標である2020年度の売上高4,000億円・営業利益600億円の実現を目指します。

Q 株主の皆さまへのメッセージをお願いします。

A 経済合理性の追求を環境性・社会性と両立させる経営が評価され、SRI指標への選定を受けました。

株主の皆さまへの利益還元につきましては、安定配当の維持を基本としつつ、企業収益の適正配分を図ることを方針としています。これに基づき、今回の中間配当は前年同額の1株当たり18円とさせていただきます。期末配当については、今のところ前年比4円の増配となる同20円を予定しています。

当社は、経済合理性の追求を環境性・社会性と両立させる経営が持続可能な企業成長の源泉となるという認識に立ち、事業活動およびCSR（企業の社会的責任）活動を通じ

て、地球環境の保全や社会的貢献に資するさまざまな取り組みを行ってまいりました。

こうした企業行動が評価を受け、世界的なSRI（社会的責任投資）指標である「FTSE4Good Index Series」に2009年から継続して選定され、さらに今年9月には、もう一つの世界的SRI指標である「Dow Jones Sustainability Asia Pacific Index」にも新たに選定されました。

当社は、真のグローバル企業としての責任を果たし、これからも社会の信頼に応えてまいります。株主の皆さまにおかれましては、引き続き一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

Q CLOSE UP

国際的なSRI指標に初選定 「DJSI の Asia Pacific Index」

このたび当社は、世界の代表的なSRI（社会的責任投資）指標「Dow Jones Sustainability Index (DJSI)」において、アジア・太平洋地域の企業を対象とした構成銘柄「Asia Pacific Index」に初めて選定されました。

「DJSI」は、米国のDow Jones社とスイスのRobecoSAM社が1999年に創設した、世界初のSRI指標です。経済・環境・社会の3つの観点から企業の社会的責任や持続可能性を評価し、総合的に優れた企業を選定しており、今回の「Asia Pacific Index」には、アジア・太平洋地域の主要企業600社から上位152社（うち日本企業は68社）が選ばれています。

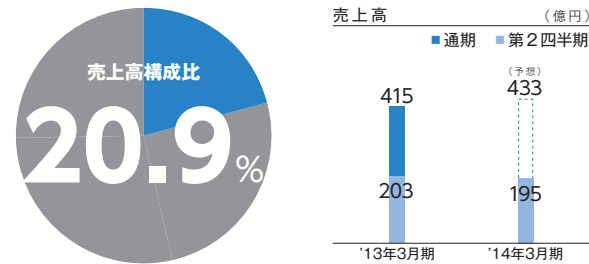
当社の社会的責任への取り組みが、高い水準にあることを国際的に認められたものと自負しています。

鉄道車両用機器の国内向けの増加や円安効果を受けて、
売上高・営業利益は前年同期に比べ増加しました。

精密機器事業



事業内容 精密減速機、精密アクチュエーター、三次元光造形装置、真空装置、風力発電機用駆動装置など



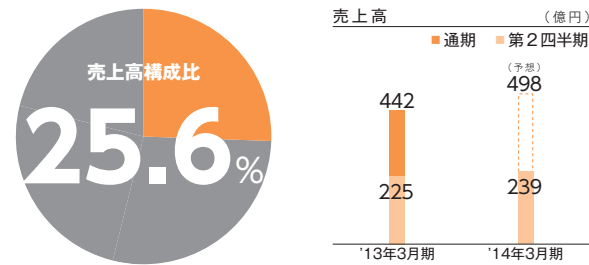
精密機器事業の売上高は前年同期比3.9%減少の195億円、営業利益は同24.1%増加し26億円となりました。

精密減速機の売上高は、産業用ロボットメーカー向けの需要減を受けて減収となりましたが、固定費削減及び生産性改善により営業利益は増加しました。

輸送用機器事業



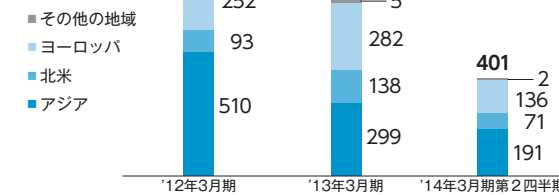
事業内容 鉄道車両用ブレーキ・ドア装置、船用エンジン制御装置、商用車用エアブレーキ装置など



輸送用機器事業の売上高は前年同期比6.2%増加の239億円、営業利益は同5.3%増加の25億円となりました。

鉄道車両用機器は、国内向け売上の増加により増収増益となりました。商用車用機器では、東南アジア向けの需要は堅調に推移しましたが、国内補修向けの需要減により売上高、営業利益とも減少しました。船用機器は、船舶市況低迷の影響を受けて減収減益となりました。

海外売上高 (億円)

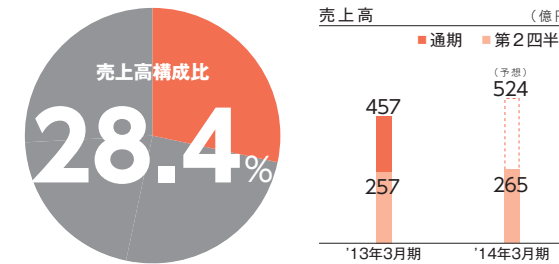


欧州向けは主に精密減速機の売上減少があったものの、油圧機器の中国向け、および航空機器の北米向けの売上が増加し、海外売上高および同売上高比率は、前年度上期と同程度になりました。

航空・油圧機器事業



事業内容 航空機器、建設機械用走行モーターなど



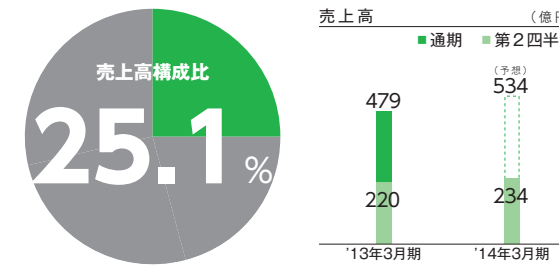
航空・油圧機器事業の売上高は前年同期比3.2%増加の265億円、営業利益は同9.0%増加し18億円となりました。

航空機器は、民間航空機需要の拡大および円安効果により増収となりましたが、アフターサービスビジネスの減少を受けて営業利益は減少しました。油圧機器は、円安効果もあり増収増益となりました。

産業用機器事業



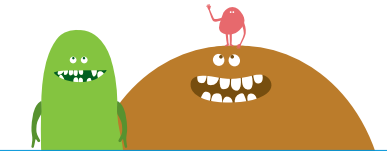
事業内容 建物用自動ドア、鉄道プラットホームドア、食品向包装機械、専用工作機械など



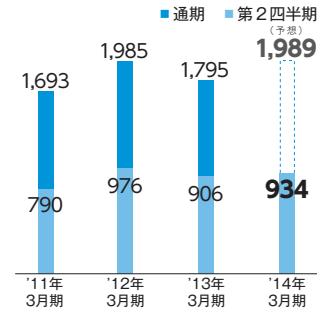
産業用機器事業の売上高は前年同期比6.2%増加の234億円、営業利益は同34.8%減少の8億円となりました。

自動ドアは、国内市況は横ばいでしたが、円安の影響を受け増収となりました。また、営業利益は製品構成の変化により減少しました。包装機は、海外向けの売上減少により減収減益となりました。

連結決算情報

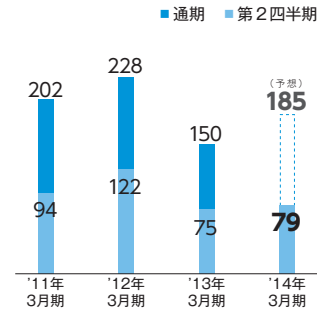


売上高 (億円)



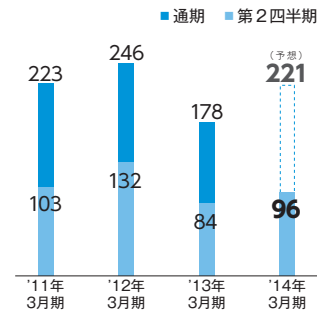
精密減速機事業や船用機器事業において売上が減少したものの、鉄道車両用機器の国内向けの増加や航空機器、油圧機器と自動ドア事業での円安効果を受けて増収となりました。

営業利益 (億円)



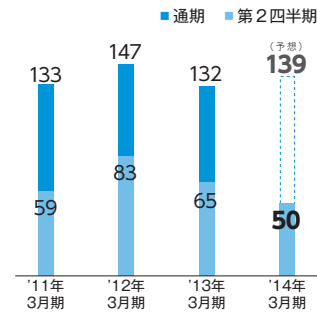
精密減速機の固定費削減、生産性改善や円安効果により増益となりました。

経常利益 (億円)



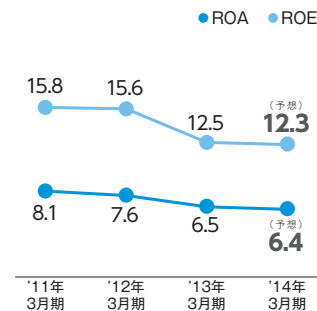
営業利益が増加したことや為替差益の発生、為替差損が発生しなかったことなどにより増益となりました。

四半期(当期)純利益 (億円)



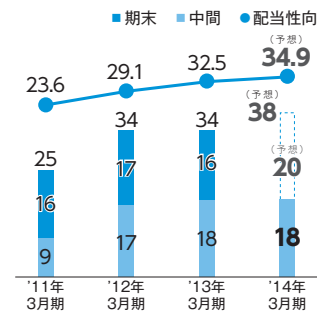
前年同期に計上したグループ会社の株式交換完全子会社化に伴う負のれん発生益が今期は発現しなかったことなどにより減益となりました。

ROA/ROE (%)



ROA・ROEを意識した経営の推進をしましたが、利益の減少により、2014年3月期末はROA6.4%、ROE12.3%となる見通しです。

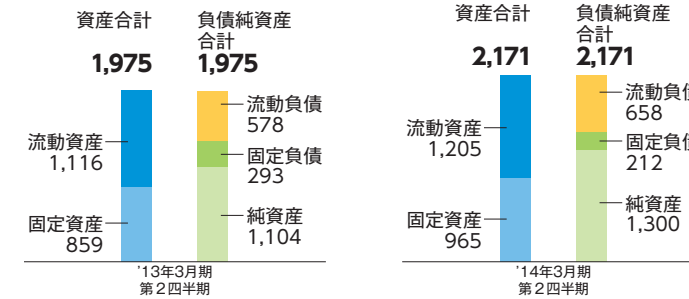
配当/配当性向 (円/%)



配当については、連結ベースの配当性向30%を目標に、安定した配当の継続を目指しています。

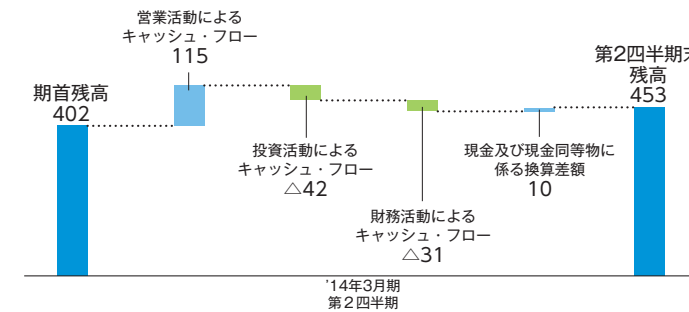
年間配当は前期に比べ4円増配の38円を予定しています。

財政状態 (億円)



資産は現金及び預金などが増加したため、増加しました。
負債は売上高増による支払手形及び買掛金の増加により増加しました。
純資産は在外子会社の為替変動による為替換算調整勘定の増加などにより増加しました。

キャッシュ・フローの状況 (億円)



営業活動によるキャッシュ・フローは、115億円の資金の増加となりました。増加要因としては主に税金等調整前四半期純利益、売上債権の減少、仕入債務の増加によるもの、減少要因としては主にたな卸資産の増加、法人税等の支払によるものです。

投資活動によるキャッシュ・フローは、42億円の資金の減少となりました。これは主に有形固定資産の取得によるものです。

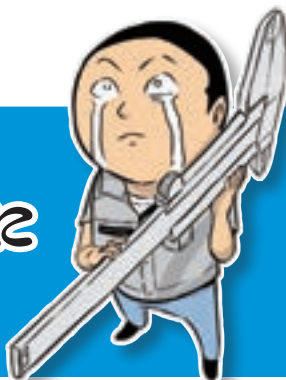
財務活動によるキャッシュ・フローは、31億円の資金の減少となりました。減少要因としては主に借入金の返済および配当金の支払によるものです。

設備投資額・研究開発費・減価償却費 (億円)

	2011年3月期	2012年3月期	2013年3月期	2014年3月期(見通し)	2012年~2014年3か年累計額(見通し)	2012年~2014年3か年累計額(中期計画)
設備投資額	63	135	101	87	324	380
研究開発費	39	52	55	68	176	150
減価償却費	53	66	79	78	223	290

10周年記念広告

見ル野栄司の ナブテスコに 男泣き!



今年8月に、当社設立10周年を記念して、朝日新聞に連載しました。代表作「シブすぎ技術に男泣き！」の理工系漫画家、見ル野栄司氏がナブテスコグループの工場・拠点を取材し、当社グループの製品や技術に関し「シブい！」と感じたことを全15回シリーズで漫画にしたものです。



アンケートのお願い

今後のIR活動に役立てていくため、株主の皆さまにアンケートを実施させていただきます。

お手数ではございますが、アンケートのご協力をお願い申し上げます。アンケートをいただきました株主さまには、もれなく10周年記念広告「見ル野栄司のナブテスコに男泣き!」特別ブックレットをお送りさせていただきます。締め切りは平成25年12月31日(当日消印有効)となります。



企画・制作
朝日新聞社広告局

●株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月下旬
基準日	定時株主総会・期末配当 毎年3月31日 中間配当 毎年9月30日
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話照会先	電話 0120-782-031 (フリーダイヤル) 取次事務は三井住友信託銀行株式会社の本店および全国各支店で行っております。

■住所変更、単元未満株式の買取・買増などのお申出先について
株主さまの口座のある証券会社にお申出ください。なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主さまは、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

■未払配当金の支払について
株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

■「配当金計算書」について
配当金お支払いの際にご送付しております「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用いただけます。ただし、株式数比例配分方式をご選択いただいている株主さまにつきましては、源泉徴収税額の計算は証券会社などにて行われます。確定申告を行う際の添付資料につきましては、お取引の証券会社にご確認をお願いします。なお、配当金領収証にて配当金をお受取りの株主さまにつきましても、配当金のお支払いの都度「配当金計算書」を同封させていただきます。確定申告をなされる株主さまは大切に保管ください。

ナブテスコ 株式会社

〒102-0093 東京都千代田区平河町二丁目7番9号
TEL:03-5213-1133 FAX:03-5213-1171
<http://www.nabtesco.com>



環境に配慮した「植物油インキ」を使用しています。